第６学年１組　総合的な学習の時間　学習指導案

１　単　元　レベルアップ！ボランティアガイド

２　指導観

　○　本学級の子どもたちは、これまでの総合的な学習の時間の中で、問題に対して解決の見通しを立て、活動の目的や内容を意識しながら主体的に活動することができるようになってきている。本単元に関しては、第5学年において、宮原坑を中心に三池炭鉱関連施設の概要や、各施設には「石炭を掘り出して運び出す」という施設同士の関わりに価値があることを学習してきている。しかし、宮原坑は「明治日本の産業革命遺産」の構成遺跡の１つであるということを学習しておらず、そのことを含まないまま4月からボランティアガイドをしてきた。そこで、大牟田市内から日本全体へも視野が広がり、社会科の学習内容とも関連性の高いこの期に本単元を取り入れる。そして、学習することを通して、それに関わってきた人々の思いや願いに気づき、地域を誇りに思う心情を育てるとともに、地域の一員として積極的に関わり世界遺産を守り受け継いでいこうとする態度を育てたい。このことは進んで友だちや地域の人々と交流しながら追求し表現する力を育てるとともに、地域の素晴らしさに気づかせ、地域の一員としての自覚を育て、かかわりの質を高める上からも意義深い。

○　本単元に関しては、第5学年総合的な学習の時間「ボランティアガイドを受け継ごう」で、駛馬小学校の6年生の伝統である宮原坑のボランティアガイドになるために、ボランティアガイドの方や、昨年度の6年生のガイドを聞いたり、パンフレットや本、インターネットを使って調べ学習を行ったりして、６つの三池炭鉱関連施設（三池炭鉱・デビーポンプ室・第１竪坑・巻き上げ機室・三池炭鉱専用鉄道敷き跡・三池港）の役割をまとめている。そして６つのグループに分かれ、それぞれ、ガイドをするための原稿と絵や写真をガイドパネルにまとめる活動を通して、各施設が関連し合って「石炭を掘る、運ぶ、輸出する」という仕組みができあがっていたということを理解している。本単元では、これらの上に立って、「明治日本の産業革命遺産」としての宮原坑に焦点を当て、他の構成遺産の役割や施設同士のつながりについて考える活動を行う。そして、宮原坑が持つ価値に気づかせ、地域に対する理解を深め、愛着を持つことができるようにする。このことは、第6学年3学期総合的な学習の時間「駛馬の魅力、発信プロジェクト」で、駛馬校区のよさを発信し、人と人のつながりをつなぐ学習へと発展する。

○　本単元における見方・考え方を働かせる表現活動として、「明治日本の産業革命遺産の他の構成遺産の概要を調べてそれらの役割やつながりを考えることを通して、あらためて見えてきた三池炭鉱の価値について考え伝え合うこと」を位置づける。そして自分たちはボランティアガイドとしてそのよさを広げることのできる一人としてもっとたくさんの人に知ってほしい、大切にしていきたいといった思いを持ち、実践できることを考えることができるようにする。

　　そのために、まず、「自分たちはボランティアガイドとして宮原坑を案内している」という自信と「明治日本の産業革命遺産の概要や他の構成遺産についてはよく知らない」という事実のずれから単元の学習課題をつくらせる。次に、他の県の構成遺産の概要を調べて役割を分類、整理し、明治日本の産業革命遺産が採炭や製鉄、造船に関わる遺産であることや、宮原坑がエネルギー源として産業の近代化を支えたことを考えさせる。そして、その中で見えてきた宮原坑のよさを出し合い、みんなで吟味しながらパンフレットにまとめる内容を絞らせる。見学者に宮原坑のどんなよさを伝えたいか考え、話し合う中で宮原坑の価値をあらためて再確認し、今の大牟田や自分たちのくらしを支えてくれたという思いを持ってボランティアガイドのぞめるようにする。

　　　特に本時指導にあたっては、パンフレットに載せる三池炭坑のPRポイントを順位付けすることで、三池炭坑の価値にあらためて気付くことができるようにしたい。そのために、まず「出合う」段階で前時に三池炭坑のPRポイントを出し合い、６つに絞り込んだことを想起させ、本時学習のめあてをつかませる。次に「つくる」段階では、１人１人が三池炭坑のPRポイントを順位付けし、その理由をワークシートに書かせる。さらに「高める」段階では、ワークシートをもとにグループ内で交流させ、観点（もし〇〇がなかったら、〇〇があったことで）に沿って比較しながらよりよいランキングを決めさせる。そして全体交流の中でも同じように比較のポイントに沿って考えを出し合い、クラスで１つのランキングを決めさせる。最後に「つながる」段階では、自分が担当したいPRポイントを選択させ次時からのパンフレット作りへの意欲を高めさせる。

３　目　標

　〇　「明治日本の産業革命遺産」の各構成遺産について調べたことを整理し、関係図にまとめ、宮原坑は明治初期の産業の近代化において製鉄・造船を支えるエネルギー源として発展を支えていたことを理解することができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（知識・技能）

　〇　三池炭坑をPRするパンフレット作りを通して、PRポイントを決めるのに、三池炭坑のよさ（エネルギー源・掘って運んで輸出するしくみ・持続的な開発・命がけで炭坑に生きた人々）について根拠を持って出し合い、よりよさを伝えられるPRポイントを順位づけすることができる。　（思考・判断・表現）

　〇　三池炭坑の魅力を１人でも多くの見学者に伝えたいという目的意識を持って、「明治日本の産業革命遺産」を調べたり、パンフレットのPRポイントを考えたりし、三池炭坑の価値やそれに関わってきた過去の人々の思いを感じながら今の自分にできることを考え、行動に表すことができる。（学ぶ力・人間性）

４　単元計画（２１時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 配時 | 学習活動 | 主な支援（□）と評価（◆） |
| 出会う  つくる  高める  つながる | １  １  ３  ２  ２  ２  １  １  １  本時  ３  １  ２  １ | １　三池炭坑の価値をもっと見学者に分かってもらうために、ガイドの内容をよりよくするという学習課題と出会う。  　○　「宮原坑をガイドしているのに『明治日本の産業革命遺産』の概要は知らない」という自分たちの不十分さに気付き、単元の学習課題をつくる。  【学習課題】　ボランティアガイドをもっとレベルアップさせよう。    〇　活動の見通しを話合い、学習計画を立てる。  ＜学習計画＞  ①　他の県の２２個の構成遺産について調べる。  ②　他の施設と宮原坑の関わりについて調べる。  ③　他の施設と比べて宮原坑のよさ・すごさを見つける。  ④　見つけたよさ・すごさをパンフレットにまとめ、市役所の方（文化財室）にアドバイスをもらう。  ⑤　市役所の方の話を聞いて、世界遺産の登録や保存に関わってきた人々のはたらきや思いを知る。  ⑥　市役所の方のお話やアドバイスをもとにガイドを修正し、練習する。  ⑦　新たなガイド内容で宮原坑をガイドする。      ２　他の県の構成遺産について調べ、三池炭坑関連施設との関係を考えて整理する。  【考えをもつための表現活動】  　〇　江戸末期から明治初期の日本の情勢の概要を知り、日本は欧米に負けない強くて豊かな国を創るために産業の近代化を図っていたことを理解する。  　〇　三池炭坑関連施設以外の構成遺産の概要を調べる。    　〇　調べたことを出し合って構成遺産が担った役割と各施設同士の関係について考える。  　〇　図化したものをもとに、明治日本の産業革命遺産の概要と、三池炭坑の価値について話し合い、まとめる。    〇　図化したものをもとに、三池炭坑の明治日本の産業革命遺産における位置づけや価値について文章にまとめる。  ３　他の施設と比べて見えてきた三池炭坑のよさやすごさについて考え、パンフレットをつくる。  【伝え合うための表現活動】  ○　市役所の文化財室の方から三池炭坑の魅力を紹介するパンフレットをつくって欲しいという依頼を受ける。  ◎　三池炭坑のPRポイント（よさやすごさ）について考え、クラスで「三池炭坑ここがスゴかランキング」を決める。  　・個人でPRポイント（スゴかポイント）とその理由をボーン図に書き出し、グループ全体で話し合って分類・整理する。  ・個人でスゴかポイントを順位付けし、グループ、全体で話し合ってランキングを決める。    ４　クラスで決定したスゴかランキングをパンフレットにする。  　○　役割分担してパンフレットを作成する。  　○　完成したパンフレットを文化財室の方に見てもらい、アドバイスや賞賛の言葉をもらう。  　○　パンフレットを置いてもらいたい施設を考え、依頼をして訪問する。    ５　パンフレットの内容を付け加えて宮原坑をガイドし、これからの自分のかかわりを考える。  【捉え直すための表現活動】  　〇　宮原坑をガイドして評価してもらい、学習活動を振り返ったりこれからの活動の在り方を考えたりする。 | □　『明治日本の産業革命遺産』を調べたいと意欲を持つことができるように、これまでのガイド活動を振り返った上で産業革命遺産の話題を提示し、まだ知らないことがあることに気付かせて追求意欲をかき立てるようにする。  □　見通しある具体的な学習計画を考えることができるように、三池炭坑が２３個ある明治日本の産業革命遺産のうちの１つであることが分かるVTRを見せる。  ◆　活動に対する意欲を持って具体的な学習計画を考えている。  □　江戸末期から明治初期の情勢については未学習のため、明治日本の産業革命遺産のパンフレット（子ども用）を使って大まかにとらえられるようにする。  □　各構成遺産の役割や関係が一目でわかるように、図化して表すように指導する。  □　話し合う中で以下のことを確認できるようにする。  ・各施設がそれぞれの役割を担って日本を近代化させ、欧米に負けない強くて豊かな国にすることをめざしていた。  ・石炭は、すべての動力のエネルギーであることから、近代化にはなくてはならない役目をになっていた。  □　１人１人が自分なりの学びを振り返ることができるように、また、ガイドの説明に生かせるように、文章でまとめさせる。  ◆　三池炭坑の明治日本の産業革命遺産における位置づけや価値について文章にまとめている。  （考えをもつための表現活動の評価）  □　「もっと宮原坑の見学者数を増やし、より、よさを知ってもらう」という目的意識を持って意欲的にパンフレット作りができるように文化財室の方から年々見学者が減少していることや、世界遺産登録から時間が経った今、見学に訪れる方は深く学びたいという人が多いということなどを話してもらう。  □　三池炭坑のすごさの視点を増やすために、市役所の方に、炭坑ではたらいていた人々の苦労や思いについてのお話を聞く。  □　各自の考えたランキングを比較し、差異点について根拠を持ってよりよいものを決めるために、「もし～がなかったら。」「～があったことで今～。」などの比較する観点で話し合うよう助言する。  ◆　比較する観点を使って話し合い、よりよいランキングを決めている。（思・判・表：発言）  （伝え合うための表現活動の評価）  □　パンフレットを置いたり、配ったりする場所を適切に決められるように、選ぶ観点（多くの人が集まる場所・観光客が利用する場所など）に沿って考えさせる。  ◆　この学習を通して、変化した自分の考えや思いを振り返り、これから宮原坑のモノ、コト、ヒトについて自分たちが伝えていくという使命を感じている。  （捉え直すための表現活動の評価） |